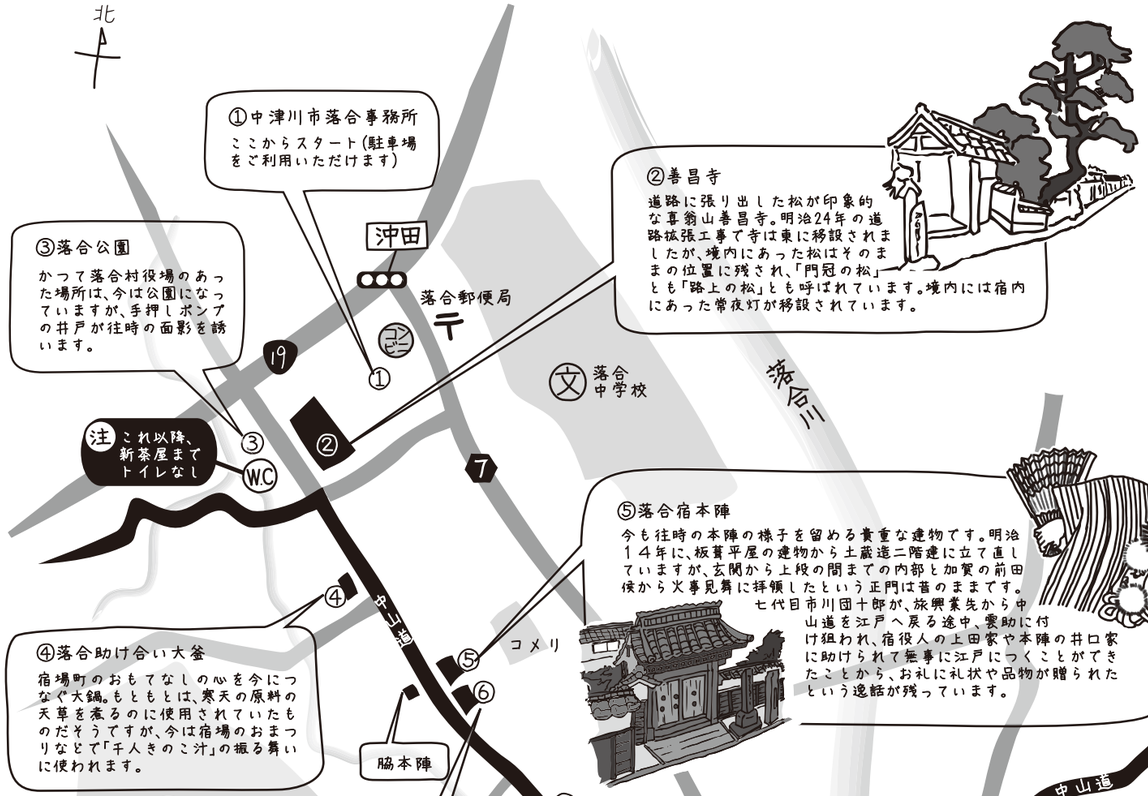
岐阜がつながる 中山道ぎふ17宿 歩き旅

中山道落合宿
市川団十郎ゆかりの本陣と木曽路の入口 十曲峠の石畳散策

かつては、美濃の信濃の国境であり、木曽路の入口であった落合宿は、昔の宿場の面影を残した長閑なまちです。
平成22年(2010)に、落合宿本陣から新茶屋の一里塚までの2.5kmが国史跡に指定され、その間には、今も当時の姿を留めている本陣や、狐膏薬で知られる医王寺、十曲峠の石畳など、多くの貴重な史跡が残っています。
国史跡の散策コースをゆっくりとお楽しみください。(片道約2.7km)

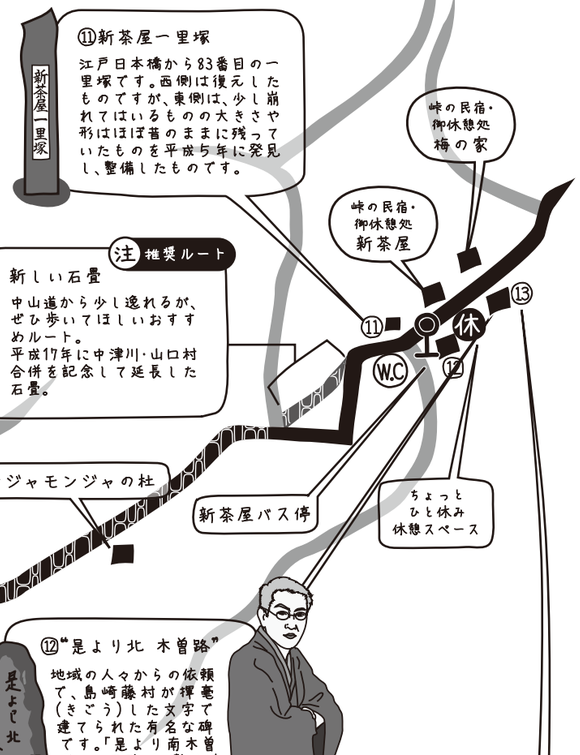


落合助け合い大釜

“木曽路の入り口”十曲峠

落合宿と馬籠宿を結ぶ中山道の峠。石畳の道沿いには一里塚や休憩所も設けられており、多くの旅人で賑わった中山道の面影が復元されている。
「夜明け前」文中には、

「山中薬師から十曲峠にかかって、新茶屋に出ると、そこはもう隣の国だ。雪まじりに土のあらわれた街道は次第に白く変わっていた。鋭い角度を見せた路傍の大石も雪にぬれていて、まず木曽路の入り口の感じを二人に与える。」(第二部 第十一章 一より)

と、西から見た十曲峠の様子が書かれている。

⑩落合の石畳
全長840mにもおよぶ石畳は国指定史跡となっており、そのうち70mが当時のままに残っています。老朽化や石の持ち去りなどにより、当時のままの石畳が残っているのは、東海道の箱根とここの2カ所のみと言われています。
注 落合の石畳 残雪・濡れ落ち葉に注意
⑨医王寺
狐膏薬で古くから知られ、「夜明け前」にも山中薬師として登場します。日本三大薬師の一つで、虫封じにご利益があるとして各地から多くの人が訪れたそうです。奥庭には、松尾芭蕉が詠んだ
「梅の香に のっと日の出る 山路かな」
の句碑があり、境内のみごとな枝垂桜には、蕉門美濃派の宗匠の崇伝坊が詠んだ
「その日その日 風にふかせる 柳かな」
の句が残されています。